

五苓散による小児急性胃腸炎の治療

福富 悌¹⁾、寺本貴英²⁾

1) 福富医院 院長、 2) 岐阜大学大学院 臨床准教授

はじめに

五苓散は、猪苓、沢瀉、茯苓、白朮からなり、いわゆる水毒に用いられる処方のひとつである。これらの生薬は利尿作用などがあり、水毒のときに水分代謝改善効果を示すとされている。基本的には新陳代謝の盛んな者（陽証）の処方であり、普段から元気が良い子どもには用いやすい薬剤である¹⁾。臨床上の使用目標となる症状は、口渇と尿量減少であり、とくに小児では急性胃腸炎などで嘔吐を伴うことが多いため、五苓散は小児に用いられることが多い。

そこで今回、小児の急性胃腸炎に伴う嘔吐を主訴に、来院した患児に投与し、投与後の経過について検討するとともに、五苓散の注腸の経験についても述べる。

症 例

症例1 10歳女児、主訴：嘔吐

既往歴及び家族歴：特記すべきことなし。

現病歴：朝から食欲が低下し、嘔吐2回出現したため受診となった。

診察所見：体重34kg、発熱はなく顔色も良好で、気力あり、脈は正常、腹部では腹満感があり、鼓音を認めたが圧痛はなし。全身状態や受診までの経過から、急性胃腸炎による嘔吐と考えられた。

経 過：少量ずつの水分摂取は可能であったため、五苓散料エキス細粒（クラシエ）を1回2gを1日2回処方した。内服後も腹満感は夕方まで続いたが、水分摂取は徐々に可能になった。翌日には食事摂取も可能となった。

症例2 11歳男児、主訴：嘔吐、下痢

既往歴及び家族歴：特記すべきことなし。

現病歴：前日夕食後に1回嘔吐あり、翌日も食欲なく、嘔吐2回の後、下痢も出現したため来院となった。

診察所見：体重35kg、体温は37.2℃の軽度発熱あり、脈は正常、時々腹痛があるものの腹部全体に鼓音を認めた。問診や症状などから急性胃腸炎による嘔吐、下痢と考えられた。

経 過：食欲なく嘔気は続いたが、下痢は1回だけであったため、五苓散料エキス細粒（クラシエ）を1回2gを1日2回処方した。内服後は嘔気がしばらく続いたが、下痢、嘔吐は消失した。腹部の膨満感は翌日まで続いたが、その後は食欲も改善した。

五苓散注腸の経験

嘔吐を主訴に来院された小児は内服が困難なことが多いため、五苓散を注腸により投与し、有効性について検討した。

対 象：嘔吐を主訴として外来受診した患児のうち、急性胃腸炎と考えられた211例。

方 法：五苓散エキス製剤を乳鉢で粉状にし、温生理食塩水20mLに溶解し、カテーテルを用いて注腸を行った。併せて家庭で注腸を行うよう保護者に指導を行い、説明書と五苓散注腸セット（図1）を渡し、不明点は電話にて対応することとした。

効果判定：注腸により嘔吐が止まったものを有効、注腸後も嘔吐をしたが軽快したものをやや有効、注腸後も嘔吐が改善せず点滴を必要としたものを無効とした。

Points

- 小児急性胃腸炎には、嘔吐だけでなく、全身状態の改善にも五苓散が効果的である。
- 五苓散の注腸投与は、嘔吐があり、飲みにくい場合にも効果的である。

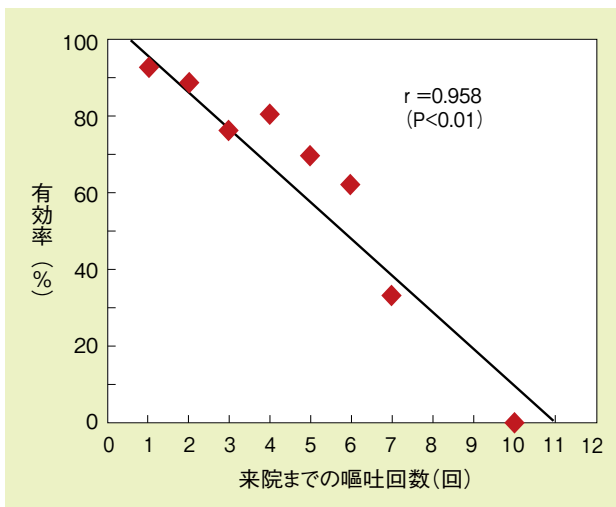
図1 五苓散注腸セット



結果：注腸による有効率は82.9% (175/211例)であった。また、来院時までの嘔吐回数と有効率には相関関係を認め、来院時までの嘔吐回数が5回までであれば、有効率が高いと考えられた(図2)。

五苓散の注腸を行なった後に、この治療法に対する印象について調査をしたところ、注腸後早期に効果が表れ、一般に今まで行なわれていた内服より効果的であるという意見が多かった。また子どもは注腸という手技を嫌がる場合もあったが、苦痛を与えるほどではなかった。

図2 五苓散の有効率と来院までの嘔吐回数の相関



●参考文献●

- 1) 丁宗鉄、佐野由枝、大塚恭男：五苓散の薬理作用 和漢医薬学会誌 2(1), 110-111, 1985.
- 2) 岩越浩子、福富 悌ほか：小児の嘔吐に対する五苓散注腸の検討 看護学雑誌 65, 488-490, 2001.
- 3) 福富 悌ほか：小児の急性胃腸炎に伴う嘔吐に対する五苓散注腸の検討 小児科臨床 53, 967-970, 2000.

考 察

小児の急性胃腸炎は、早期に嘔吐を伴うことが多い上、脱水症状を来たしやすいため、早い治療が望まれている。漢方薬は慢性疾患のみならず急性疾患にも効果的で、なかでも急性胃腸炎では有用性が高い³⁾。しかしながら漢方薬の使用については、経験が少ない場合には、西洋薬を選択される場合が多いと思われが、実際には小児の急性胃腸炎についてみると、小児は一般に活動的で、新陳代謝が活発であるため、症状が軽度であれば、証を考慮することなく用いることができる。そのため小児の急性胃腸炎では五苓散の効果が期待される。ただし、嘔吐回数が多くなれば、全身状態が悪化し、小児であっても陰証となるため、効果は期待できない。注腸による投与方法も、嘔吐があり内服が困難な場合には有効的な投与方法であり、今までの経験からも5回までの嘔吐であれば効果的であったことから、症状が軽度である場合の有効性は明らかであった。特に注腸の手技は簡単であり、有効率も高いことより、時間外や救急外来での処置としては積極的に試みてよい治療法であると考えられた^{2, 3)}。五苓散は小児の急性胃腸炎による嘔吐だけでなく、全身状態の改善にも効果的であり、積極的に用いられるべき薬剤であると考えられた。

ま と め

小児の急性胃腸炎の早期には、五苓散料エキス細粒は有効であると考えられた。また注腸法は有効率も高く苦痛を伴わず印象もよいことより、小児の急性胃腸炎による嘔吐の治療法として有用であると考えられた。